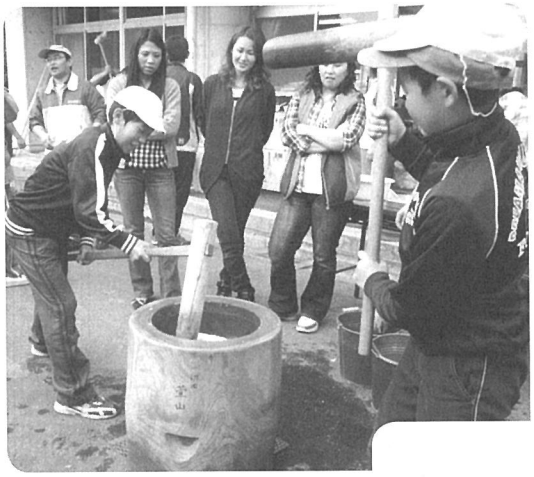
福島県PTA連合会会報
第88号_H24.07.10

ＰＴＡふくしま

第88号
福島県ＰＴＡ連合会
編　集／調査広報委員会
印　刷／泉　印　刷　所

力を合わせて！



「やきそばパーティー」
「収穫祭（もちつき）」

みんなで楽しく

〔提供　平田村立永田小学校〕

《主な記事》

全国のＰＴＡに感謝　Ｐ２
地区だより　Ｐ２
第60回 福島県ＰＴＡ研究大会会津若松大会　Ｐ３
平成24年度福島県 PTA 連合会役員一覧　Ｐ４
「日中友好少年少女の翼」に参加して　Ｐ４
第47回県ＰＴＡ広報紙・学校新聞コンクール　Ｐ５
安全互助会から　Ｐ６

●県Ｐ連会長あいさつ

「ゆっくりでもいい、前へ進もう」

福島県ＰＴＡ連合会
会長　佐藤辰夫

悪夢の三・一一から一年四ヶ月となります。消したくとも消すことのできない記憶、事実。そして未だ収束の見えない原発事故。私たちは三・一一の真っ只中にいます。震災後徐々にわかってきた当時の学校の様子。子どもたちに全力で向き合ってきたＰＴＡの様子。言葉では表現しつくされないことばかりです。全国的にはすでに風化が始まり、風評が色濃く残されています。

一方、震災後には日本ＰＴＡ全国協議会の呼びかけにより全国から多くの義援金が届きました。義援金は前年度中に各郡市Ｐ連の方へ配分済みです。子どもたちの心のケアなどに有効に使われます。また、全国のＰＴＡを始め多くの方々が本県の子どもたち、ＰＴＡ支援のために来県し、本県の視察ならびに情報交換を行っています。そして他の被災地との違いを、各地方協議会の会員のみならず地域の皆さんへの情報発信を行っています。改めて志を同じくする全国のＰＴＡの絆を再確認しました。

私は子どもたちには、三つの権利があると考えています。「生きる権利」、「育つ権利」、「学ぶ権利」です。いかなる環境であろうと、この権利は平等かつ確実に保障されなければなりません。この三つの権利が一つになり、初めて子どもたちが将来の夢を描き、前に進むことが出来ると、震災後、時が経るごとに強く思うようになりました。本県は広いです。地域の事情も異なります。関係者がそれぞれ考え実行することが大切です。ゆっくりでもいいです。

復興元年の今、新たなスタートが求められます。無我夢中で直面する課題に向き合い、全力で走った昨年度とは違います。

今年度も多くの課題が想定されます。役員、理事の皆さんと知恵を絞り前へ進めてまいります。会員の皆様のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

県Ｐ連活動スローガン　子と親とが　共に育つ　ＰＴＡ活動を

「全国のＰＴＡに感謝」

福島県ＰＴＡ連合会
前副会長
佐藤 壮一郎

福島県ＰＴＡ連合会副会長を二年間務めさせていただきました。その間、東北研究大会・全国研究大会に参加させていただき、全国には熱く子どもたちのことを語る沢山の仲間がいることに気づかされました。

昨年の東日本大震災その後の東京電力福島原子力発電所の事故による放射能汚染により、不自由な避難生活を余儀なくされ、子どもたちも本来いるべき同級生とも離れ離れになりながらも仮の校舎で勉強している現実を思うと、胸が痛みます。あの時、いち早く全国のＰＴＡより支援の申し出があり、大変ありがたく思いました。感謝に堪えません。

これからは小中学校のＰＴＡ会員ではありませんが、責任ある大人として、今後も子どもたちを見守り支援していきたいと思います。最後に、県会長はじめ、役員・理事の皆様そして県内ＰＴＡ会員皆様に大変お世話になりました。ありがとうございました。

地区だより

東北Ｐ福島大会に向けて

福島県ＰＴＡ連合会副会長
藤原 聡

第四十五回東北ブロック研究大会福島大会は、平成二十五年九月六日（金）から九月八日（日）までの三日間、福島市内を中心に開催されます。今回の大会は福島市及び伊達地区、川俣地区の三地区が主管となり準備をすすめております。「ほんとの空の下で語り合おう！笑顔あふれる子どもの未来」を大会主題とし、また、六つの分科会を設定しております。

大会の成功を目指し、平成二十二年十二月に福島大会準備委員会が発足しました。

しかし、平成二十三年三月十一日に発生した東日本大震災、東京電力福島第一原発の事故等の影響で、当初使用を考えていた施設が損壊し、修繕の見込みがたたず、また放射線の問題等で、はたして平成二十五年九月に予定通り大会を開催できるのか不安な中での準備作業が続きました。

幸いにも、施設は復旧作業が順調に進み、また、放射線の対策も少しずつではありますが行われており、なんとか各県の方々をお迎えしての開催への見通しがたちました。

今まで、準備委員会を中心に、過去の大会や類似の大会の運営方法等を参考にしながら、皆様にとって意義深い大会となるよう協議を重ねてきました。

福島の現状をご理解いただきながら、ここ福島より東北のＰＴＡ、全国のＰＴＡに元気を与えられる大会となるよう、今後も関係各位と協力や連携を深めながら、準備作業を進めていきたいと思います。

「見せてやりましょう　福島の底力を!!」

大会の主人公は皆さんです!!

福島大会に乞うご期待を！

『ぬぐい心』

都路中学校ＰＴＡ会長
松本 広行

突然の大地震。この世の終わりを感じた激しい揺れ。「日本沈没」の映画でもないが、そんな不安にさいなまれた昨年の三月。まさかその後に、さらに原発事故が重く苦しくのしかかってくるとは。

どんな地震でも絶対大丈夫。原発安全神話に少しの疑問もなかった。ところが、テレビ放送で唖然。原発爆発。それも次々に。そして放射能漏れ。それでも、原発から田村市都路までは二十キロ、すぐには影響ないだろうと思っていた矢先に避難指示。避難所は、寒く、狭く、ストレスが…今思えば本当によくしのぐことができた。

三月いっぱい休校して迎えた四月、都路中学校の入学式は、避難先の市の公共施設で行った。来賓もなく新入生を迎える、ひっそりとした入学式だった。

市内が原発事故の影響で混乱するなか、常葉中学校を間借りして、授業を再開した。常葉中自体、地震で大きな被害を受けていたが、いろいろと気配りをいただいた。

本校の教育の柱は、『ぬぐい心』である。「ぬぐい」とは、都路の方言で「あたたかい」を意味する。ボランティアなど様々な体験を通して、心の通うあたたかい〈思いやり・感謝・礼儀・向上心〉を身につけ、行動できる中学生を目指していた。しかし間借りしての学校運営では、活動に限界があった。

旧春山小学校を都路中学校単独校として、すぐに要望したかった。ここには同じ都路の人たちが避難していた。避難者最優先も十分承知していた。自問自答もあり、精神的に負荷があったが、避難生活が子どもたちの夢や希望の障害になってはならないとの思いで、市当局・議会議員・行政区長に要望することにした。避難している顔見知りの方々への、校舎明け渡しの求めは、大変心苦しかったが、何度か話し合いをもって、快い理解を得た。高校受験を控える三年生にはもちろんであるが、少しでも、他校の生徒と同じ学習条件を整えてやりたかった。単独校実現には、多くの方々の理解と協力があり大変ありがたかった。本校が目指す『ぬぐい心』で、心から御礼を申し上げたい。

夏休みあけから単独校として学校運営を再開し、四月からは新たに幼稚園が加わり、変わらずこの旧春山小での学校運営をしている。

第六十回 福島県ＰＴＡ研究大会会津若松大会

大会主題

会津の地に集い『人と地域の絆』を生かし、手を取り合い行動しよう

～ふくしまの明るい未来のために～

1．趣旨

未曾有の大災害から立ち上がり、着実な歩みを進める中で、「人と地域の絆」に改めて目を向け、それを生かしながらＰＴＡ活動の再建・再活性化を目指し、意見や経験を交換し、行動していこうと考え、主題を設定した。

大地震、大津波、そして原発事故の被害から、まだはっきりとした再生の道筋が見えていない中、未来を担う子どもたちのために、私たち父母と教師の会としてできることを考え、実際の活動につなげていきたい。

2．主催

福島県ＰＴＡ連合会

3．後援（予定）

福島県教育委員会・福島県市町村教育委員会連絡協議会・会津若松市教育委員会・福島県小学校長会・福島県中学校長会・（公益財団法人）日本教育公務員弘済会福島支部

4．主管

会津若松市父母と教師の会連合会
双葉郡小中学校ＰＴＡ連合会

5．期日

平成二十四年十月十四日（日）

6．会場

会津若松市
〈全体会〉
會津風雅堂
〈分科会〉
會津風雅堂
文化センター
会津大学
会津ワシントンホテル

7．参加者

福島県内ＰＴＡ会員及び関係者
（約一、五〇〇名）

8．参加費

お一人　三、五〇〇円
（弁当代含む）

9．日程

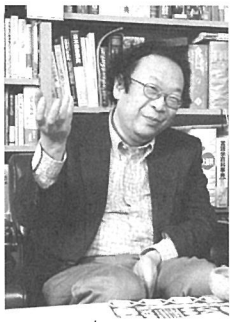
十月十四日（日）

9:00	9:30	11:30	13:00	14:00	15:45
駐車場集合	受付	分科会	昼食	全体会	記念講演 金田一秀穂 氏
					駐車場へ移動

移動
（エキシビション）

金田一（きんだいち）　秀穂（ひでほ）氏

日本語学の権威である祖父・金田一京助氏、父・春彦氏に続く、日本語研究の第一人者。海外での日本語教育経験も豊富で、わかりやすく、かつ楽しく日本語を語る姿はメディアでもおなじみ。ハーバード大学客員研究員を経て、現在は杏林大学外国語学部教授を務める。



10．分科会テーマ及び研究の視点

No.	区分	テーマ	内容	研究協議の視点	会場	人数
1	組織運営・研修	活動の活性化・参加意識の高揚	魅力と活力のある活動をつくりあげるため、広い視野に立って意見を交わし、経験を共有しよう。活動の創造、発信について考え、行動しよう。	困難な状況の中でＰＴＡ活動として「今」そして「これから」できること、しなければならないことについて学ぶ。会員の参加意識の向上のための方策を考える。ＰＴＡ活動への理解と協力を得るための手立てを探る。	會津風雅堂	六百
2	家庭教育・健康安全	心身の健やかな成長	学校でのさまざまな取り組みを理解し、家庭で子どもたちと過ごす時間に生かし、充実した生活を支えていこう。	子どもたちを取り巻く環境が激変する中で、健康や安全を守るための、家庭・地域での生活を考える。学校での学習や活動について理解を深め、家庭での支援のあり方を考える。	文化センター	四百
3	健全育成	健全育成・非行防止	子どもたちの健全育成を図るために、親として、地域の大人として行動できることを学び、実践していこう。	青少年を取巻く社会環境や文化を学ぶ。学校での取り組みに対する、家庭の協力をどうするか考える。子どもの自立・自律を支える親の姿を探る。避難生活や震災の影響に関して考える。	会津大学講堂	三百
4	特別支援教育	特別支援教育の理解	特別な支援を必要とする児童・生徒への理解を深め、共に成長できる教育環境を目指し行動しよう。	特別支援教育の現状とこれからを考えた取り組みについて学ぶ。心身に障がいがある児童・生徒への理解を深め、支えることのできるＰＴＡ活動について考える。	ワシントンホテル	二百

平成24年度　福島県 PTA 連合会役員一覧

▼会長　佐藤辰夫（郡山市Ｐ連・元顧問）
▼副会長　藤原聡（福島市Ｐ連・会長）
〃　村上和行（田村地方Ｐ連・会長）
〃　小竹晴彦（会津若松市Ｐ連・会長）
〃　西道典（相馬地方Ｐ連・会長）
〃　丹野学（県小学校長会会長）
〃　根本眞（県中学校長会会長）
▼監事　横山充（伊達地区Ｐ連・会長）
〃　金田智明（耶麻地区Ｐ連・会長）
〃　石明生（いわき市Ｐ連・会長）
▼日Ｐ評議員　伊藤典夫（郡山市Ｐ連・会長）
〃　遠藤誠一（西白河Ｐ連・会長）
〃　山岸波（母親代表）
▼母親代表　山岸波（県北・福島）
〃　重本恵子（県中南・郡山）
〃　川島久美子（会津・会津若松）
〃　大樂治美（浜・いわき）
▼理事（役員を除く）
〃　佐藤明（川俣町Ｐ連・会長）
〃　齋藤裕二（安達地方Ｐ連・会長）
〃　中山雄一（岩瀬地区Ｐ連・会長）
〃　岡部幸夫（石川郡Ｐ連・会長）
〃　湯座和志（東白川郡Ｐ連・会長）
〃　國安治隆（北会津地区Ｐ連・会長）
〃　髙橋勝彦（両沼地区Ｐ連・会長）
〃　諏訪定明（大沼郡Ｐ連・会長）
〃　二瓶浩明（南会津郡Ｐ連・会長）
〃　幾橋功（双葉郡Ｐ連・会長）
〃　安藤哲朗（県北ブロック代表）
〃　久保直紀（県中ブロック代表）
〃　佐藤勝久（県南ブロック代表）
〃　菊池芳次（会津ブロック代表）
〃　芳賀弘一（南会津ブロック代表）
〃　大谷一裕（相双ブロック代表）
〃　稲沼正雄（いわきブロック代表）

「日中友好少年少女の翼」に参加して

郡山市立安積中学校　三年　東　和里

私は今回の体験を通して感じたことがいくつかありました。

一つ目は、日本と中国の関係についてです。日本の伝統文化の多くが中国を起源とするものであることは以前から知っていました。しかし、日本と中国では言葉や国家のあり方など、異なる部分もたくさんあります。現在、日本と中国の間には、様々な問題があることも学びました。私は、今回の体験から、異なるところがあっても、共通するところからお互いが歩み寄っていけば、日中両国はこれからも良い関係を築いていけるのではないかと思いました。

北京の中学生と交流した時、日本語と中国語で話したのは挨拶のみで、それ以外の会話は英語でした。相手の中学生も私も流暢な英語ではありませんでしたが、互いが相手を思いやりながら話すことで、互いに気持ちを通じ合わせることができました。互いの言語は異なっても共通するもので気持ちを通わせ伝え合う。私はそのことを体験したとき、とても嬉しかったです。

二つ目は、中国の歴史についてです。日本の武士道に通じる剣道の教えの中に、「交剣知愛」という言葉があります。これは、友達や先生と剣を交えることで友情や徳を得て自分自身を向上させる、という意味です。中国で太極拳体験をした時、太極拳は見知らぬ人と同じことをすることで、人との心の輪を広げるという目的から始まったことを学びました。国が違っても、人を敬う気持ちや人への優しさは同じだということを実感することができました。また、永遠と続く万里の長城からの眺めは、景色も絶景でしたが、中国の壮大な歴史を感じることができました。

全国から集まった仲間と中国で過ごした五日間は、私にたくさんのことを教えてくれました。私はこの体験を活かし国際社会に少しでも役に立てる人間になりたいと思います。そして、「少年少女の翼」で出会った全ての人に心から感謝したいと思います。ありがとうございました。

郡山市立湖南中学校　三年　成山　潤

私は、今年の三月末に、五泊六日の日程で日中友好「少年少女の翼」に参加させていただきました。初めてこの話をいただいたときは、福島県の代表ということもあり、少し戸惑いましたが、なかなかできない体験なので、参加させていただくことにしました。

全国各地から、代表の中学生が来るということでとても緊張しましたが、交流していくうちに打ち解けることができました。中国に行ってからは、自分の知らない初めての世界がたくさんありました。中国で体験したことの中で、特に記憶に残っていることが二つあります。

一つ目は、中国の中学生との交流です。中国の中学生は、みんな英語が達者で、その英語のレベルの高さに、圧倒されるばかりでした。最初は緊張もあり、うまく話せませんでしたが、一緒に食事や交流をするうちに、下手な英語とジェスチャーを使って、何とか会話ができるようになり、交流会が終わるころには仲良くなることができました。

二つ目は、世界遺産である万里の長城を、間近で体感できたことです。万里の長城は、秦の始皇帝が建てた城壁で、二百万キロメートル以上もあります。そこから見える景色はまさに圧巻で、見た瞬間にとてもすがすがしい気持ちになれる景色でした。その光景は、今でも目に焼き付いています。

人生の中で一度、あるかないかわからないような、素晴らしい体験をすることができました。

これから先、生きていく中でも、この経験は、一生忘れることはありません。そして、この日中友好「少年少女の翼」で出会えたことに感謝して、全国の友達とこれからも連絡を取り合って、一生の友でいられるようにしたいです。

最後に日中友好「少年少女の翼」に関わったすべての方々に感謝したいと思います。貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

第47回県ＰＴＡ広報紙・学校新聞コンクール 晴れの受賞校

第四十七回県小中学校新聞・ＰＴＡ広報紙コンクールの審査会は四月十七日、福島市の福島民友新聞社で開かれた。

県内の小学校八十校、中学校四十七校の計百二十七校から、百三十四点の応募があった。

審査の結果は次の通り。

【ＰＴＡ広報紙の部】

◇最優秀賞
「はちのす」（白河二小）
「信　陵」（信陵中）

◇優秀賞
「せいめい」（清明小）
「梅　友」（福島四小）
「カリヨン」（小金井小）
「ほおの木」（喜多方二小）
「みくわば」（渡利中）
「大　樹」（平一中）

◇入　選
「お　か」（五十沢小）
「みなみ風」（南向台小）
「みなみ」（二本松南小）
「　絆　」（ザベリオ学園）
「薫だより」（薫小）
「おおしま」（大島小）
「あぶくま」（中村一小）
「しおさい」（四倉小）
「ら　ん」（福大附属中）
「會　虎」（一箕中）
「かがやき」（高田中）
「若あゆ」（浪江中）

【学校新聞の部】

◇最優秀賞
「歩」　翁島小学校

◇優秀賞
「天翔ける夢」　天栄中学校

◇入　選
「学校のまどから」　三河台小学校

白河二小「はちのす」

白河市立白河第二小学校

楽しい委員会活動？

『楽しい「委員」があるから入ってみない？』と、ある人からの誘い文句？いや殺し文句で、六年前から私の広報生活がスタートしました。右も左もわからない自分でしたが『楽しい』というキーワードには興味がありました。

私で大丈夫か？という不安と「楽しみ」という希望の中、広報委員会に入った時、すでにレベルの高い広報誌となっていた『はちのす』。編集をする委員さんにも自然と熱が入ります。いつも飛び交うアイデア…。とても、心強いです。

今現在、新校舎の建設と共に移り変わる学校の様子をリアルタイムで取り上げ、読まれる保護者の方々の目線になっての誌面作り。昨年の東日本大震災後特に広報誌を読めば学校のことが分かる。子どもたちの頑張る姿・笑顔を見て癒され元気になっていただけたら…との思いがあります。そして、何より私たち委員が楽しんで活動していることです。実は『写真部？』というくらいにいろんな場面の子どもたちの姿を撮り続けています。子どもたちの笑顔があるかぎり…。これから、もっともっと成長していきたいと思います。

最後になりますが、このような栄誉ある受賞を頂けたことを心から、保護者の皆さま、先生方のおかげであると心より感謝申し上げます。その想いを継承することが私の自問自答かも知れませんが、広報委員会の顧問である市川泰一郎さんのおかげです。自分も楽しみながら出来る委員会は広報だと伝えたいと思います。

（広報委員長　大竹美保）

信陵中「信　陵」

福島市立信陵中学校

最優秀賞を受賞して

東日本大震災の影響によって、在校生不在の入学式が行われるなど、学校の教育活動を例年通り行うことが困難な状況の中で、ＰＴＡ広報誌発行に向けた第一回編集会議が開催されました。広報誌の編集方針や紙面構成の話し合いを行う目的で開かれた会議でしたが、広報部員の話題はどうしても大震災の被害や避難による転出入生徒の状況について、そして何より関心が高かったのが、給食や学校の水道水の安全についてや被爆のおそれなど、子どもたちが本当に安全に学校生活を送ることができるのかということでした。

そこで、『放射能とどう向き合うか』をテーマとした保護者アンケートを実施して、その集計結果から、保護者が学校教育に何を求めているのかを探ったり、通学路の安全性確認を目的に、学区内の主要箇所で放射能値を測定したりして、第一号の特集記事をまとめることにしました。

ＰＴＡ全会員から回収した大量のアンケートを集計したり、不慣れな線量計を使って、夏の暑い中、学区内各所で放射能値を測定するのは、なかなか骨の折れる仕事でしたが、広報部員全員で力を合わせながら、粘り強く作業に取り組んだおかげで、例年には見られない、特色のある特集記事をまとめることができたと思います。

今回、「ＰＴＡ会員が知りたいことを、知りたいと思っているうちに、正確に伝えよう」をモットーに編集活動に取り組んできた本校の広報部の活動が評価され、ＰＴＡ広報紙コンクールで最優秀賞を受賞できたことは、喜びに堪えません。今回の受賞を励みにして、今後もますます特色ある充実した記事の広報紙を発行できるよう、広報部員が一丸となって、編集活動にまい進したいと考えています。

（ＰＴＡ会長　吾妻貴彦）

安全互助会から

常日頃より、福島県ＰＴＡ安全互助会に対し、ご理解とご協力をいただいておりますこと厚く御礼申し上げます。

今年度は、通常の流れで、加入申込みをいただくことができました。

万が一、事故が発生したら

①学校に連絡してください。

【学童のケガ】

学校の管理下外での、急激かつ偶然な、外来の事故によるけがを補償します。

※入院、通院の場合、治療期間が七日以上の場合に対象

※低温火傷、腱鞘炎、疲労骨折などは、急激かつ偶然な外来の事故には該当しないため対象外

※学校管理下の登下校中（自宅より校門前まで）、学校休業中の部活動でのケガは補償対象

【ＰＴＡ会員のけが】

ＰＴＡ会員（含む学童）が、ＰＴＡ主催・共催行事に参加している時の急激かつ偶然な外来の事故によるケガを補償します。

※入院、通院の場合、治療期間が一日から対象

※ＰＴＡ行事の資料、計画書（事故日が記載されたもの）を添付のこと

・ＰＴＡ奉仕作業中のケガ

・ＰＴＡ球技大会の練習中のケガ

・ＰＴＡ行事に参加するための往復途上のケガ　など

②保険金の請求は面倒がらずに

医療費の無料化が進み、市町村によって違いはあるものの窓口での支払いの必要がなくなってきています。しかし、本制度は、あくまで保険制度で、医療費とは別に支払われるものなので、面倒がらずに請求手続きをしてください。

③賠償事故の不明な点は問い合わせを

学童、ＰＴＡ会員の賠償事故の補償については、いろいろなケースがありますので、お問い合わせください。

④事故報告について

○傷害事故、賠償事故の報告については、ケガをした日・事故が発生した日が基準日となります。

○「事故報告書に、住所や氏名を記載しますが、「フリガナ」の付け忘れが多く見受けられます。そのたびに、学校・幼稚園、請求者ご本人に問い合わせさせていただくことになりますので、本会宛に郵送される際、付け忘れがないかどうかご確認いただきたいと思います。

⑤他の保険に加入している場合

○傷害事故については、加入している保険会社からそれぞれに保険金が支払われますので、本会にも忘れず請求してください。

○賠償事故については、他の賠償責任保険に加入している場合は、各保険で損害賠償を按分して支払うことになります。

したがって、賠償事故については、他の賠償責任保険契約の有無についての確認をお願いしています。

編集後記

昨年の三・一一以降、本県の置かれた状況の厳しさは変わっていません。未だ原発事故の収束がないまま、県民は、原発事故の影響を受け続け、日々不安な毎日を送っています。

先日行われた「小中学校懇談会」の中で、外で思い切り体を動かすことのできない子どもたちの体力不足が話題となりました。

ほとんどの小学校で、ようやく校庭での運動会が実施できましたが、午前中だけの実施、シートを敷いて玉入れを行うなど、通常の運動会に戻ることができるのはまだ先のことなりそうです。

県Ｐ連としても、事故以来、文部科学省、福島県、日本ＰＴＡ全国協議会等、関係機関に引き続き要望を伝えてまいります。

何よりも、子どもたちの学校生活、家庭生活の安全・安心が確保されることが、私たちの強い願いです。

（Ｔ・Ｈ）

共栄火災

夢を、未来を、
ずっと近くで支えたい。

つながり強化宣言！ 共栄火災

サイ吉

人々が気持ちよく毎日を暮らせるよう、
安心のチカラでそっと支えるサイ。
共栄火災のサイ吉です。

共栄火災海上保険株式会社　〒960-0231 福島県福島市飯坂町平野字三枚長 1-1　TEL.(024)554-3006　www.kyoeikasai.co.jp